



東京都立大学大学院  
人間健康科学研究科  
人間健康科学専攻  
作業療法科学域

Tokyo Metropolitan  
University  
Department of  
Occupational Therapy  
Graduate School of  
Human Health Sciences  
2020



TOKYO  
METROPOLITAN  
UNIVERSITY

首都大学東京は、2020年4月1日に大学名称を東京都立大学に変更しました。

# 作業療法科学域

## ディプロマ・ポリシー

人間健康科学研究科では、大都市で生活する人々の「健康」に関連する研究を重点的に行っている。とくに、東京都立大学の使命である「活力ある長寿社会の実現」に貢献する研究は、本専攻の重要課題のひとつである。幅広い分野の理論や実践的知見を礎に確立された学問体系を基盤とし、それを深化させるとともに、学際的・融合的な研究体制のもと、大学院教育が行われている。健康に関わる様々な分野における「高度実践的専門家」ならびに「先端的研究者」の育成を目指している。

## アドミッション・ポリシー

### 【博士前期課程・全分野共通】

作業療法科学域では、人間を作業的存在と捉えることによって、科学的、社会的、国際的、文化・創造的視点から幅広く作業療法に関する知識の構築を図り、作業療法教育、一般臨床から地域・生活におけるヘルスプロモーションに貢献する実践家、教育・研究者を育成することを目指しています。そのため、

- ・作業療法に関連する幅広い教育力、マネジメント力、そして研究力を身につけることができる人
- ・作業療法の創造的発展に貢献しながら、国際的にも活躍できる可能性を持ち、こうした努力を惜しみなく実行できる人を求めます。

### 【博士後期課程・全分野共通】

博士後期課程では、博士前期課程における作業療法に関する知識の構築に加え、さらなるその深化を図り、より自立した指導的な実践家、教育・研究者を育成することを目指しています。そのため、自らの専門分野で卓越した知を創出することにより、作業療法の創造的発展に貢献するとともに国際的にも活躍が期待できる人を求めます。

# 分野紹介

## 心身機能作業療法科学

本分野は、人間を構成する身体、精神・心理、発達の領域研究とそれぞれの学際性ならびに統合研究を行うことを目的とします。とくに人間心理と活動、生活、環境、文化の視点から新しい作業療法研究、教育、臨床を創造していく意欲と想像力に溢れた陣容で構成されています。質的研究、量的研究はもちろん、混合研究法の発展を踏まえながら根拠に基づく作業療法を確立し、より豊かで開かれた社会と人間真理の追求に貢献できる意欲をもつ「研究者の卵」を広く募集いたします。私たちと一緒に core of human being を探求しませんか。

## 作業行動科学

作業行動 (Occupational Behavior) や作業科学 (Occupational Science) は作業療法創始者たちの理念を現代化するために提唱されたものです。本分野ではこれらの理論の更なる展開のために、関連する哲学やシステムの発想、行動科学といった諸概念の応用を図ります。そして、作業が人々の健康と幸福にどのように影響するのか探っていきます。本分野では理論の様々な作業療法領域への応用やエビデンスの産出のみならず、作業を通して住民が健康になれるような地域づくりにも積極的に参画して、作業療法の可能性を広げていきたいと考えています。

## 作業生活環境科学

対象者が心から望む作業 occupation を可能とするために、環境へのアプローチは欠かせません。本分野で学修していく環境には、福祉機器・用具や住宅改修などの物的環境、介護家族や専門職スタッフなどの人的環境、サービスや制度などの政策的環境、震災や気候変動などの自然環境、スティグマや社会規範などの文化的環境が含まれます。このような環境がいかにして人の作業参加を阻害・促進するのかを明らかにし、人の生活を豊かにする手だてを提案していくのが本分野のミッションです。

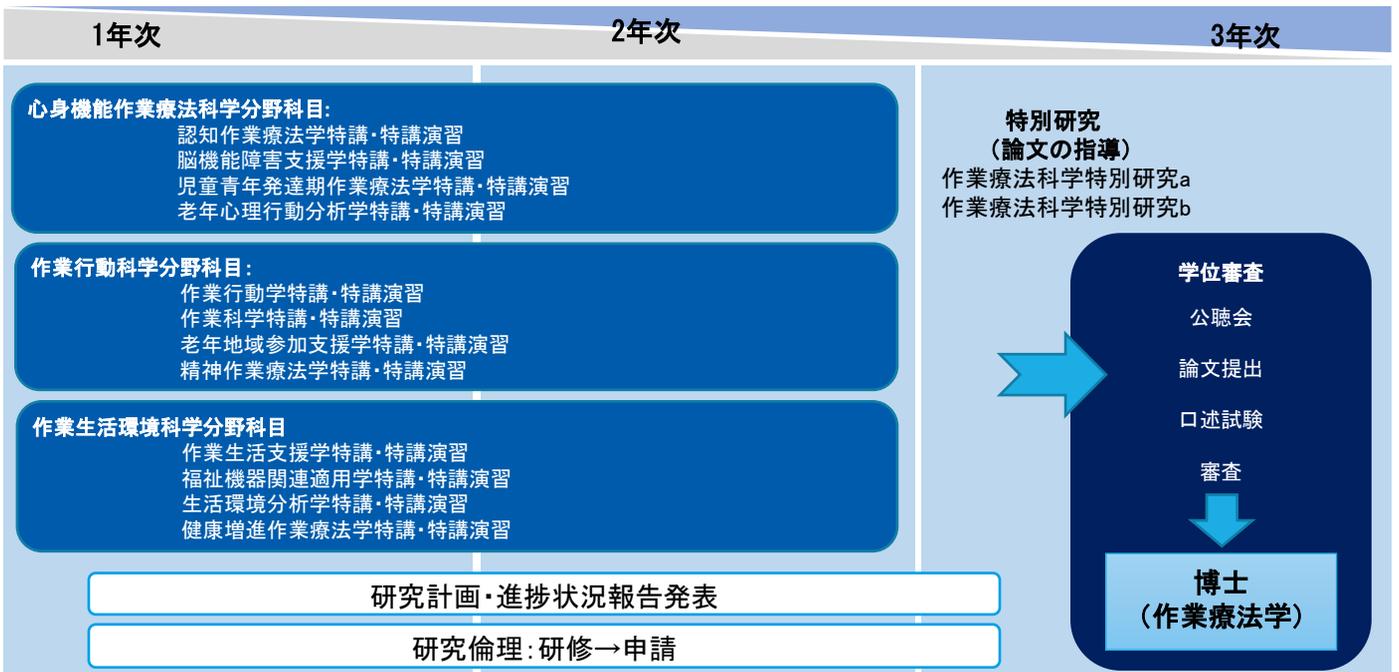
# カリキュラム・ポリシー

前期課程、後期課程ともに、変化を続ける社会状況に対応し、新たに出現してきた健康上の問題（健康増進・障害予防）や障害構造の変化（老年期障害、特に認知症高齢者、発達期障害、特に自閉スペクトラム症などの発達障害児・者の増加、及び、地域で生活する障害者の増加）に対処できる教育課程を編成している。特に、地域作業療法学を充実させ、障害を持つ子どもから高齢者に至るまでの多様な人々の地域参加を促進するような教育課程に重点を置いている。なお、社会人学生の就学を支援するために、昼夜開講制を採用し、土日、祝日も開講している。

## 作業療法科学域 博士前期課程 カリキュラムツリー



## 作業療法科学域 博士後期課程 カリキュラムツリー



# 教員紹介

教員名	職位	研究領域
石井 良和	教授	精神領域の作業療法および人間作業モデルの評価・適用に関する研究
大嶋 伸雄	教授	身体障害の作業療法、認知作業療法、リハビリテーション・マネジメント理論、多職種連携理論(IPC)・他職種連携教育(IPE)に関する研究
小林 法一	教授	高齢者の地域作業療法に関する研究
小林 隆司	教授	地域包括ケアにおける作業の習慣化プロセスの解明と介入プログラムの開発
塩路 理恵子	教授	臨床精神医学、不安障害および慢性抑うつ of 精神病理学・精神療法・森田療法
ボンジェ・ペイター	教授	作業科学、narrative-in-action(行為の中のナラティブ)や参加型研究法、多職種連携(IPW)と多職種連携の教育(IPE)
石橋 裕	准教授	健康増進事業における作業療法支援の効果研究、化粧を用いた作業療法プログラム(SSPC)の効果研究
伊藤 祐子	准教授	発達障害児の作業療法における評価・支援システムの開発、感覚統合、小児の支援機器、おもちゃ、遊具、特別支援教育の作業療法に関する研究
井上 薫	准教授	作業療法教育および福祉用具・評価・トレーニング機器の開発、医療・福祉ロボットの臨床応用
藺牟田 洋美	准教授	高齢者心理学:閉じこもり高齢者への心理的支援法、高齢者の居場所感の研究
谷村 厚子	准教授	精神科領域の作業療法に関する研究、地域精神保健サービスに関する研究、作業療法教育に関する研究
橋本 美芽	准教授	高齢者・障がい者の障害特性と住環境・福祉用具の適合に関する研究、認知症高齢者の住環境整備に関する研究
宮本 礼子	准教授	functional MRI を用いたヒトの自他認識に関する研究、学生の総合臨地実習に関する自己認識の研究、作業療法学生の自己認識に関する国際比較研究
須山 夏加	特任 准教授	身体障害の作業療法、作業療法教育に関する国際比較研究、東南アジア地域における作業療法に関する研究、専門職連携・教育(IPW/IPE)に関する研究

# 学位論文

## 2019年度 修士論文

作業参加とプレレイル及び心理社会的状態の関連構造の検討： 地域で自主活動に参加する高齢者を対象とした分析
回復期リハビリテーション病棟における認知障害合併患者の転帰先に関わる影響因子について
脳卒中高齢者の椅子座位上の仙骨座り姿勢が上肢機能に与える影響
回復期リハビリテーション病棟入院中のクライアントと担当作業療法士の治療関係はどのような関係で成り立つのか： 解釈学的現象学の方法を用いて
作業療法士におけるワーク・ライフ・バランスの状態と精神的健康に関する研究
脳卒中後の抑うつ状態において自己効力感とADL自己評価および疾病体験が与える影響
地域在住高齢者に対する生活とICTを関連づけた社会参加支援プログラムの開発に関する予備的研究
化粧行為評価表試作版の開発： 質問項目の作成と内容的妥当性の検討
日本での高齢者に適した都市環境の構築における作業療法の役割
小児がんにより入院している子どもの日常の作業に関連する社会文化的背景： 両親の経験を通じた研究（インドネシア）
タイの高齢者の作業活動におけるスマートフォン使用の有効性

## 2019年度 博士論文

活動日記を用いた集団プログラムが地域在住高齢者の作業に対する満足度に与える効果： ランダム化比較試験
高齢者のうつ状態の有無は社会的役割とどのような関係があるのか： 役割チェックリストを用いた検討
挑戦水準と能力水準のバランス調整を基にした作業療法がクライアントの主観的QOLに与える効果： ランダム化比較試験
作業療法士が介護職と情報共有するための自記式チェックリストの開発
脊髄損傷者における個人あるいは人間関係上の行為主体性： 退院後の作業参加再開過程の分析を通して（バングラディシュ）
フィリピン人作業療法士の麻薬常習とリハビリに対する役割： Q方法論

# 作業療法科学域の国際交流

## 海外への留学・研修

### ● 英国オックスフォード・ブルックス大学 Oxford Brookes Universityへの短期研修

本学は、2012年に以降、教育・研究の国際交流を継続しています。夏季には大学院グローバルコア医療人材短期研修を実施し、毎年数名の院生が参加しています。この取組みは、本学の院生が英国の大学教員や院生と議論したり、作業療法の現場を見学したりすることにより、自身の研究を異文化の中で多面的に検討し、国際的視野に立った研究実践力を学ぶことを目標としたプログラムです。

### ● 海外短期留学

本学大学院（修士課程・博士課程）では東京都立大学の派遣留学生経済支援制度を利用し、2週間から6ヶ月以上の短・中・長期留学が可能です。なかでも、スウェーデンのカロリンスカ研究所とは国際交流、学生・教員交流を継続して行っており、博士課程の院生がカロリンスカ研究所に留学し、教授陣のもとで研究活動を実施し、院生同士の議論、国際学会への発表などを通して、自身の研究テーマをより幅広い視点で探求し、グローバルな研究者としての歩みを進めました。カロリンスカ研究所以外にも、指導教員のアレンジによりアメリカ合衆国をはじめ海外の大学への研修なども行っています。

### ● ユーロマスター(European Master of Science in Occupational Therapy)の履修

ユーロマスターとは、アムステルダム応用科学大学に本部を置き、ヨーロッパの5つの大学により提供される作業療法の修士課程です。ユーロマスターでの科目履修は、修士課程の単位読み替えが可能です。

留学可能な大学 Amsterdam University of Applied Sciences (オランダ)

University of Brighton Eastbourne (イギリス)

Zurich University of Applied Sciences Winterthur (スイス)



## 留学生の受け入れ

### ● 東京都立大学東京都都市外交人材育成基金を活用した外国人留学生の受け入れ

2012年より博士および修士課程に、アジアからの留学生を受け入れています。

(\*2018年度は6名、2019年は4名、2020年5名が在籍)

### ● 東京都立大学アジアの高度先端医療者育成事業による外国人留学生の受け入れ

2017年度より支援機器や子ども関連の研究テーマで、アジアからの修士課程学生を受け入れています。将来、東京とアジアの架け橋となる作業療法人材育成に貢献します。

(\*毎年4名が在籍)

### ● 大学院科目「Advanced Occupational Therapy」

毎年、海外のさまざまな大学から講師を招聘し、国際的な視点で作業療法を学ぶとても魅力的な機会を提供しています。

### ● TMU-OT Graduate School International Seminar

留学生のためのセミナーとして毎月1回開催しています。英語でのプレゼンテーションやディスカッションを磨きたい日本人学生も参加しています。

# 東京都立大学アクセスマップ

## 各キャンパスの位置と交通アクセス



### 荒川キャンパス

所在地

〒116-8551 東京都荒川区東尾久7-2-10

Tel 03-3819-1211 (代表)

所属組織

健康福祉学部、人間健康科学研究科

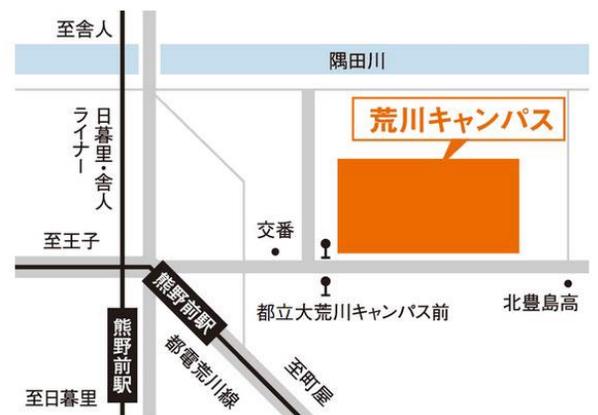
#### アクセス

日暮里・舎人ライナー「熊野前」駅下車徒歩3分

都電荒川線「熊野前」駅下車徒歩3分

田端駅から都営バス端44系統「北千住駅行」に乗車

「都立大荒川キャンパス前」下車徒歩0分



### 南大沢キャンパス

所在地

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

Tel 042-677-1111 (代表)

所属組織

都市教養学部、都市環境学部、人文科学研究科、社会科学部、理工学研究科、都市環境科学研究科、人間健康科学研究科ヘルスプロモーションサイエンス学域

#### アクセス

京王線相模原線「南大沢」駅改札口から徒歩約5分

※改札口を出て右手に緑に囲まれたキャンパスが見えます。

